

# 「第2期 北海道創生総合戦略」の 概要と今後の取組

北海道 総合政策部地域創生局 地域戦略課

## はじめに

道では、長期的な観点から、2040年以降を見据え、北海道の人口の現状と将来の姿を示し、人口減少をめぐる問題について道民と認識を共有するとともに、今後目指すべき将来の方向性を提示するため、2015（平成27）年10月に「北海道人口ビジョン」を策定しました。

また、長期的な展望に立ちつつ、短中期的な見地から、自然減対策、社会減対策などの人口減少対策を進めるため、「北海道創生総合戦略」を策定し、本道の人口減少の克服に向けた取組を進めてきました。

令和2年3月には「第2期北海道創生総合戦略」を策定し、北海道の創生に向けた施策を総合的かつ計画的に推進しているところであり、今回はその概要についてお伝えするとともに、新型コロナウイルス感染症の拡大による社会経済情勢の変化などを踏まえた今後の取組について触れさせていただきます。

## 戦略の位置づけと推進期間

本戦略は、まち・ひと・しごと創生法第9条に基づく「都道府県まち・ひと・しごと創生総合戦略」として策定するものであり、北海道の創生に関する施策推進のための目標及び中長期的な指針となるものです。

推進期間については、北海道における人口の長期的な展望に立ち、短中期的な見地から施策を計画的に実施するとともに、国や市町村の総合戦略と一体的に推進するとの観点から、2020（令和2）年度から2024（令和6）年度までの5年間としています。

## 持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた施策の推進

道では、2018（平成30）年12月、国連で採択された

「SDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）」の17のゴールに照らした、本道の直面する課題、独自の価値や強みを踏まえた「めざす姿」などを示した「北海道SDGs推進ビジョン」を策定し、当該ビジョンに沿って、多様な主体と連携・協働しながら、北海道全体でSDGsの推進を図ることとしています。

本戦略では、人口減少下においても、将来にわたり安心して暮らし続けることのできる地域社会づくりを進めることを取組の基本方向としており、豊かで美しい自然環境、安全・安心な食、豊富で多様なエネルギー資源に加え、独自の歴史・文化、気候風土など、持続可能な地域づくりに向けての北海道の優位性を最大限に活かしながら、SDGsの理念と合致する施策を推進します。

## めざす姿と取組の基本方向

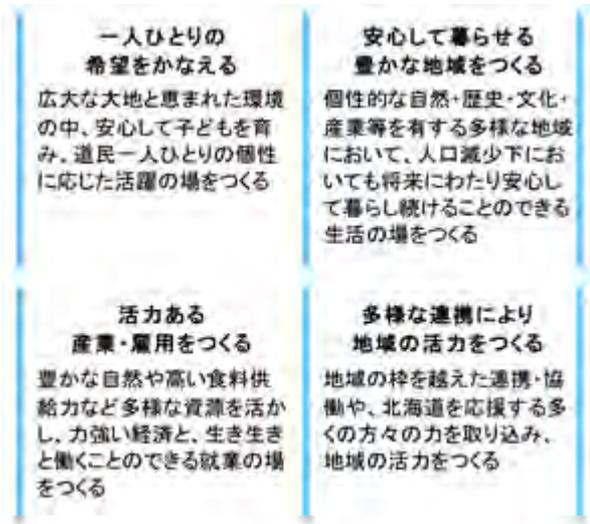
第1期の北海道創生総合戦略策定から5年が経ち、あらためて人口減少問題への危機感、そして今後の見通し、課題などの認識を広く道民と共有し、人口減少にしっかりと立ち向かい、北海道人口ビジョン（改訂版）で示した人口の将来見通しのとおり、「2040年に460万人から450万人の人口を維持する」との長期展望に立って、この総合戦略がめざす姿を次のとおりとしています。



幅広い世代が集い、つながり、  
心豊かに暮らせる包容力のある北海道

また、「めざす姿」の実現に向けて、次の4つを取組の基本方向とし、この方向に沿って総合戦略を構成しています（図1）。

（図1）



**戦略推進の基本方針と総合戦略の枠組み**

総合戦略に掲げる施策は、取組の基本方向に沿いながら、①基本認識の共有と全員参加、②市町村戦略との一体的推進、③札幌市との連携強化、④民間との連

携・協働、⑤分野横断的な政策展開・SDGsの推進、⑥施策の重点化の6つの方針に基づいて推進を図ります。

総合戦略は、北海道の人口減少対策の中核として、重点的に展開する「重点戦略プロジェクト」、人口減少対策の総合的な対応を図る「基本戦略」、振興局が中心となって推進すべき政策の基本方向を示す「地域戦略」の3つの戦略により構成しています（図2）。

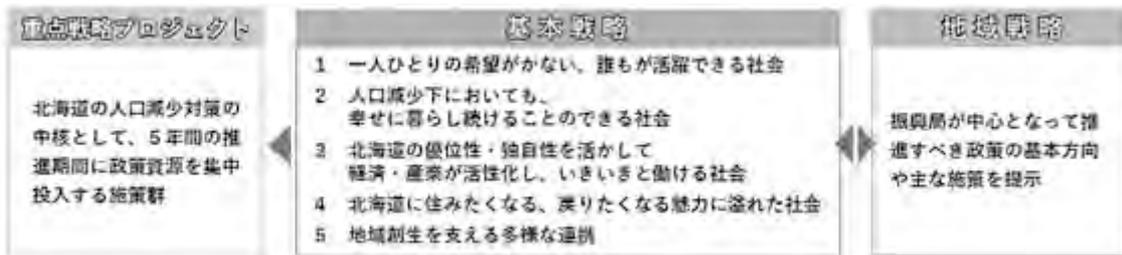
**重点戦略プロジェクト設定の枠組みと概要**

基本戦略に掲げる施策のうち、北海道の人口減少対策の中核として、地域創生の根幹をなす「まち」「ひと」「しごと」の3本柱に対応した3つのプロジェクトのほか、その効果を高める横断的な取組として2つのプロジェクトを設定し、戦略の推進期間である5年間（2020年度～2024年度）を通じて政策資源を集中投入するなど、重点的な展開を図ります（図3）。

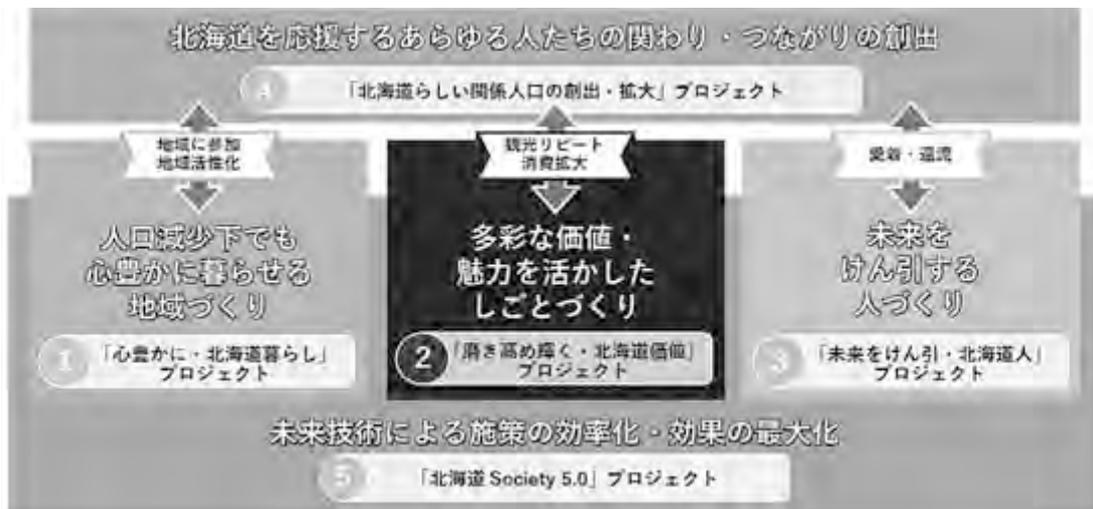
**① 「心豊かに・北海道暮らし」プロジェクト  
—人口減少社会に適応した地域づくり—**

長期的に続くことが見込まれる人口減少を見据え、今からその社会に適応し、その地域に住み続けられるよう、行政サービスの維持、生活インフラの確保、買い物環境の整備など、住民の「暮らし」の観点による

（図2）



（図3）



地域づくりを進め、これまで以上の心豊かな北海道暮らしを創出します。

## ② 「磨き高め輝く・北海道価値」プロジェクト

### －食や観光を中核としたしごとづくり－

北海道が世界に誇る価値・魅力である食や観光は、更なる創意と工夫で、一層の高みに押し上げられる潜在力を有しています。これら貴重な資源を磨き、しごとを創造し稼ぐ力を高め、本道経済を力強く輝かせる取組を進めます。

## ③ 「未来をけん引・北海道人」プロジェクト

### －北海道をけん引する人づくり－

北海道創生は息の長い取組であり、当面の取組はもちろんのこと、中長期的にこれを支える人材の育成が重要です。未来の北海道を創造する広い視野と挑戦への意欲・熱意を備える人づくり、人生100年時代を見据え、あらゆる立場・世代の人づくりを進めます。

## ④ 「北海道らしい関係人口の創出・拡大」プロジェクト

### －①～③に効果的に関わる関係人口の創出・拡大－

道内を何度も訪れる多くの観光客、盛況を博す北海道物産展、ふるさと納税を通じた多くのご支援など、北海道への関心・愛着・想いは、急速に人口減少が進む本道において、大きな力となっています。こうした北海道への想いをしっかりと受け止め、暮らし・経済・人づくりの効果を高める力となるよう、北海道らしい関係人口の創出・拡大に向けた取組を進めます。

## ⑤ 「北海道Society 5.0」プロジェクト

### －①～③の施策を効率化し、効果を最大化－

近年目覚ましい発展を遂げている情報通信技術等の未来技術は、人口減少を含め課題の先進地であり、広域分散型の地域構造である北海道においてこそ、ピンチをチャンスに変える力を持っています。北海道創生の次のステージに向け、Society 5.0を見据えた取組を進めます。

### 基本戦略

総合戦略のめざす姿を実現するためには、人口減少に関する危機感や課題などの基本的な認識を道民や関係者と共有し、粘り強く継続的に進めるべき人口減少の進行の緩和と、人口減少が地域に与える影響への対応の二つの視点に立って、取組を進めて行く必要があります。そうした観点から、北海道の創生に向けた基本戦略として、5つの柱を設定し、総合的に施策を推進していきます（図4）。

### 地域戦略

#### ～道と179市町村のスクラムをより一層強化～

持続可能な地域づくりを進めていくためには、地域それぞれの特性や実情に応じ、都市と農山漁村、地域の中核となる都市と近隣の市町村など、広域的で多層的な連携・補完を行いながら、地域における多様な主体が一体となって取組を進めていくことが必要です。

このため、重点戦略プロジェクトや基本戦略との連

（図4）

基本戦略	
<b>1 一人ひとりの希望がかない、誰もが活躍できる社会</b>	
① 安心して生み育てられる環境の整備	② 若者、女性、高齢者、障がい者など多様な人材の活躍
③ 未来を担う子どもたちの成長を支える教育環境の充実	
<b>2 人口減少下においても、幸せに暮らし続けることのできる社会</b>	
① 将来を見据えたまちづくり	② 安全・安心な北海道づくり
③ 穏やかに暮らせる医療・福祉の充実	④ 地域を支える情報通信基盤の整備
⑤ 地域を支える特長的な交通ネットワークの構築	
<b>3 北海道の優位性・独自性を活かして経済・産業が活性化し、いきいきと働ける社会</b>	
① 魅力ある食の国内外への展開	② 地域経済を支える中小・小規模企業の裾野
③ 農林水産業の持続的成長	④ 道外・海外からの投資促進
⑤ さらに高みを目指した観光戦略の推進	⑥ 産業をけん引する人づくり
⑦ ものづくり産業をはじめ北海道の発展をリードする産業の振興	⑧ 働き方改革の推進
<b>4 北海道に住みたいくなる、戻りたくなる魅力にあふれた社会</b>	
① 移住・定住の促進	② 航空ネットワークや北海道新幹線等を活用した新たな人の流れの創出
③ 外国人材の受入拡大と共生	④ スポーツによる地域の振興
⑤ 関係人口の創出・拡大	⑥ 北海道独自の歴史や文化の発信
<b>5 地域創生を支える多様な連携</b>	
① 自治体間の広域的な連携の促進	② 人口減少対策に関する札幌市との連携強化
③ 多様な主体との連携体制の構築	

(図5)

1 振興局の様々なエリアにおける施策展開	
空知地域	未来技術の導入などによる産業の振興、担い手の確保 など
石狩地域	若者の地元定着の取組と道外からの多様な人材の呼び込み など
釧路地域	国境観光リゾートエリアを活用した広域観光の展開 など
根室地域	交流人口及び関係人口の創出・拡大に向けた官民連携による地域資源の活用 など
日高地域	「ひだか」の産業を支える人材確保・育成 など
渡島地域	渡島の魅力を活かした定住環境づくりと関係人口創出の推進 など
樺山地域	歴史・文化・食・自然を活かした交流人口の拡大 など
上川地域	天塩川や大雪山など魅力ある地域資源を活かした上川地域への来訪促進 など
網走地域	南北で異なる自然条件に応じて展開される多彩な農林水産業の振興 など
オホーツク地域	釧路などの雄大な自然や地域の特徴を活かした観光・食産業・交流の強化 など
オホーツク地域	人口減少社会を見据えたオホーツク地域への来訪促進 など
十勝地域	近未来技術の実用化及び先進分野の産業振興による地域活性化 など
新幹線地域	「振興産業ビジョン」の推進など一次産業の生産力強化・付加価値の向上に向けた取組の推進 など
根室地域	我が国最大の草資源を活かした飼料や豊かな漁業資源を有する水産業の振興 など
2 振興局を越えた広域連携による施策展開	
<ul style="list-style-type: none"> <li>日本道産「国鉄道」を活用した交流人口の拡大（空知・後志・樺根）</li> <li>「北海道・北東北の縦文道幹線」を活用した地域の魅力発信と訪客促進（渡島・釧路・石狩） など</li> </ul>	

携を密にしなが、地域づくりの拠点である振興局が中心となって進める施策の基本的な方向性を地域戦略として提示しています（図5）。

### 市町村戦略支援

北海道の創生に向けては、道と市町村が強固なスクラムのもとで課題の認識を共有し、市町村総合戦略との有機的な連携を図りながら、取組を一体的に推進することが重要です。

このため、「地域とともに考え行動する」という発想のもと、地域の実情に応じ、市町村が市町村総合戦略の着実な推進に資する取組を行えるよう、「資金・人・情報」の3つの側面から積極的に支援を行います（図6）。

### 総合戦略の見直しについて

地域創生は、文字通り「地域」自らが未来を「創生」するものであり、総合戦略はその手段であることから、時代に即応して不断に見直しを行わなければなりません。

このため、毎年度、道の総合計画と連動した政策評価の仕組みによるPDCAサイクルのもと、その評価結果を踏まえながら、産官学金労言の代表者等で構成す

る「北海道創生協議会」における議論を通じ、戦略の検証、見直しを実施することとしており、今後、新型コロナウイルス感染症の拡大による社会経済情勢の変化などを踏まえた見直しを進めていくこととしております。

### おわりに

全国を上回るスピードで進行する人口減少は、現在の本道における人口構造や人口動態などを勘案すると、その傾向が長期的に続くものと見込まれています。こうした状況は、本道が直面する最大のピンチです。また、この度の新型コロナウイルス感染症は、「まち」や「しごと」のあり方、「ひと」の動きなど、地域創生の姿に大きな影響を及ぼしています。

しかしながら、北海道では、これまで、先人が幾多の困難に挑み乗り越えてきたように、この新型コロナウイルス感染症の拡大がもたらした、都市部一極集中のリスク回避など人々の価値観の変容を北海道の真価を発揮する新たな成長への好機、挑戦への機会と捉え、人口減少下においても心豊かに暮らし続けられるような包容力のある北海道の実現に向けて、取組を進めてまいります。

(図6)

